S・ウィルダースピンのクラスルーム，運動場，ギャラリーとその系譜

英国における小学校建築に関する計画史的研究 (2)

CLASS ROOM, PLAYGROUND, GALLERY BY S. WILDERSPIN AND THEIR ROOTS
A historical study on the design of elementary schools in the UK Part 2

満岡 誠 治*
Seiji MITSUOKA

The aim of this study is to clarify a class room, a playground and a gallery in the educational theory written by Samuel Wilderspin and to investigate the roots of them with the research in some old educational entities in Scotland, such as the New Institution of Formation of Character, the University of Edinburgh, the High School of Edinburgh and the Edinburgh Academy. At the High School of Edinburgh, the word of 'class' emerged in 1644 and class rooms existed in the old building built in 1777. Furthermore, in 1764, a gallery could be seen at the anatomy theatre in the University of Edinburgh. Since then, a gallery had built in a class room for a lecture, like a simultaneous education, which enabled a professor to teach a lot of students at once.

Keywords : class room, playground, gallery, Samuel Wilderspin, UK

クラスルーム，運動場，ギャラリー，サミュエル・ウィルダースピン，英国

1. 序

1-1. はじめに

クラスルームと運動場は小学校建築の主要な構成要素である。英国におけるそれらは世界史上の先駆的な事例であり、その史的研究はクラスルームと運動場の本質を解明することに繋がるので、オープン型クラスルームや運動場の地域開放が議論となる現代の小学校建築に対しても有効な知見を与えると考える。筆者は満岡(2010)^{注1)}において、1816年にロバート・オーエン Robert Owen(1771-1858)がスコットランドのニューラナークに設立した性格形成新学院に、クラスルームと運動場の起源が認められることを論述した。本稿では、性格形成新学院に繋がるクラスルームと運動場の事例として、サミュエル・ウィルダースピン Samuel Wilderspin (1792-1866)の教育論におけるクラスルーム、運動場、ギャラリーに着目する。

1-2. 既往研究と本研究の目的

クラスルームと運動場の発展に関して、ウィルダースピンに着目した建築学からの視点による文献に Seaborne(1971)^{注2)}と Markus(1996)^{注3)}がある。第一に Seaborne(1971)は、ウィルダースピンが「クラスルーム」という用語を、教育論において、スクー

であるとともに、運動場の設置を推進した先駆者であると述べている^{注4)}。しかし Seaborne(1971)では、ウィルダースピンの著書に掲載された幼児学校のモデルプランをはじめ、クラスルームや運動場に関する記述は紹介されておらず、彼の論じるクラスルームや運動場の具体像は明らかにされていない。

第二に Markus(1996)は、ウィルダースピンによる幼児学校のモデルプランを掲載し、クラスルーム、運動場、ギャラリーの三つはウィルダースピンの発明 inventions であり、1825年のウィルダースピンの著書で初めてそのモデルプランが公開されて、英国中でこれらの発明品が採用されたと述べている^{注5)}。これに対して筆者は、クラスルーム、運動場、ギャラリーを利用する教育方法を論じた先駆者はウィルダースピンであることに異論はないが、それらはウィルダースピンの純然たる発明ではなく、後述のようにその系譜をさらに遡ることができると思う。

ここで注目されるのは、Hamilton(1998)^{注6)}が、「学校建築に初めて現れた用語クラスルーム」として1824年に出版されたエジンバラ・アカデミーの平面図を掲載していることである^{注7)}。しかし、平面図の掲載に留まり、それに関する説明や考察はなされていない。

以上を踏まえて本研究は、既往研究では未解明であったウィルダ

本論文は既発表論文1と2を結合し、加筆・修正したものである。

* 久留米工業大学工学部建築・設備工学科
准教授・博士(人間環境学)・M. Arch.

Assoc. Prof., Department of Architecture & Building Service Engineering, Faculty of Engineering, Kurume Institute of Technology, Ph. D. and M. Arch.

ースピンの教育論におけるクラスルーム、運動場、ギャラリーの具体的な内容を明らかにするとともに、その系譜をオーエンの性格形成新学院や、エジンバラ・アカデミー等のスコットランドにおける大学及び高等学校の建築に見出せることを論じるものである。

2. スパイタルフィールズ幼児学校

2-1. 設立の背景

労働者階級の子弟を対象とした英国における最初の幼児学校は、1816年にロバート・オーエンがスコットランドのニューラナークに設立した性格形成新学院の中の年少クラス（幼児クラス）である^{注8)}

(図1)。同学院の1816年の記録では、昼間の授業に3歳から10歳までの274名の子どもが登録されており、このうちの3歳から6歳までの80名が年少クラス（幼児クラス）であった^{注9)}。年少クラス（幼児クラス）は2クラスあり、ジェームズ・ブキャナン James Buchanan(1764-1857)とモーリー・ヤング Molly Young(生没年不明)という二人の教師が担当した^{注10)}。このうちブキャナンは、子どもの教育に長けた人物であり、1819年に英国では二番目の、またイングランドでは最初の幼児学校となるロンドンのウエストミンスター幼児学校 Westminster Free Day Infant Asylum or Westminster Infant School が、オーエンの信奉者団体であるウエストミンスター・コミッティによって設立されるにあたり、その校長として招聘された^{注11)}。同校では、2歳から11歳までの子どもが学んでいる^{注12)}。続く英国で三番目の幼児学校として1820年7月24日にロンドンのスパイタルフィールズに、ウエストミンスター・コミッティのメンバーであった絹織物商ジョセフ・ウィルソン Joseph Wilson(生没年不明)によって設立されたのが、クウェイカー・ストリート幼児学校

図1 性格形成新学院、校舎と運動場(1818年頃)：運動場では子どもが行進している

図2 性格形成新学院、2階平面図(上)と1階平面図(下)：1階の3室は年少クラス（幼児クラス）専用の部屋だった

図3 幼児学校のモデルプラン：スクールルーム、クラスルーム、運動場、教師用住宅から構成されている

図4 クラスルームでの授業：約10名のクラスと呼ばれる子どものグループに教師が直接授業を行っている

図5 一斉授業「ギャラリー・レッスン」：教師と一人の子ども（モニター？）がギャラリーの前面に立ち、一斉授業を行っている

図6 ギャラリーと講壇(図3の部分的拡大)：ギャラリーの前面にモニター用の講壇が設置されている

図7 「ギャラリーに座った子どもたちにモニターが教えるための講壇 Rostrum for the monitor to teach Children when Seated in the Gallery」と書かれた脚注：図3の部分的拡大

Quaker Street Infant School であり、その別名がスパイタルフィールズ幼児学校 Spitalfields Infant School である^{注13)}。同校では2歳から7歳までの幼児が学んでいる^{注14)}。設立にあたって、ブキャナンがその校長として選任したのが、サミュエル・ウィルダースピンである^{注14)}。彼は、開校2週間後の1820年8月7日に同校校長として着任した^{注15)}。さらに1825年からは、同校での経験を踏まえ、幼児教育に関する公演を英国各地で行った^{注16)}。その結果、ウィルダースピンは、1820年代から30年代にかけて英国全土に展開した幼児学校運動の中心人物となった^{注17)}。

2-2. 施設構成

ウィルダースピンの著書である Wilderspin(1824)^{注18)}に、スパイタルフィールズ幼児学校での経験談として、スクールルーム school room、クラスルーム class room、運動場 playground についての記述がある^{注19)}。したがって、同校にはスクールルーム、クラスルーム、運動場が存在したと断定できる。また同書に、幼児学校に必要な施設として教師用住宅 master's house についての記述がある^{注20)}。したがって、教師用住宅も併設されていた可能性がある。一方、Wilderspin(1825)^{注21)}及び Wilderspin(1829)^{注22)}は、幼児学校のモデルプランを掲載しており、それは 80 x 22 ft²のスクールルーム、20 x 18 ft²のクラスルーム、100 x 40 ft²の運動場、さらに教師用住宅から構成されている(図3)。スパイタルフィールズ幼児学校の建築平面は不明だが、同じ諸空間から構成されていることから、それはモデルプランに類似したものだったと思われる。

3. ウィルダースピンの教育論

3-1. クラスルームについて

Wilderspin(1824)によると、スパイタルフィールズ幼児学校の教員は校長であるウィルダースピンとその妻の2名であり、多数の幼児を教育する必要から、スコットランド、セント・アンドリュース大学出身のアンドリュー・ベル Andrew Bell (1753-1832)が考案したベル方式のモニトリアル・システムを採用した^{注23)}。スクールルームでは、モニトリアル・システムに従って、子どもたちを約10名単位の複数のクラスにグループ分けし、子どもたちの中から選ばれたモニター(助教生)によってクラス毎にレッスンが行われた^{注24)}。このようなモニトリアル・システムにおける教師の仕事とは、直接子どもたちに対して授業を行うことではなく、モニターによるクラス毎のレッスンが滞りなく行われているかを監視することであった。これに対して、同校には「クラスルーム」と呼ばれる小型の教室が設置されており、そこでは当初、次の第一の授業方式が、また後に第二の授業方式が実行された^{注26)}。

第一は、教師の指示下に約10名からなる一つのクラスの子どもたちが四角に並び、各自文字が書かれたカードを持って、全員一緒に復唱するものである。

「(スクールルームでのレッスンが)最初に終わったクラスは、分離された部屋へ連れて行かれる、そこで子供たちは、最初とは異なる方法のもう一つのレッスンを受ける、ちなみに我々はそこをクラスルームと呼んでいる、それぞれの子どもはカードと真鍮(の箱)を与えられて、四角に並んで、クラス全員で習ったことを一緒に復唱する。The class that has done first is taken into a separate room, where the children have each another lesson, though in a different way from the first, for in what we call the class room, each child is furnished with a card and tin, and being formed into a square, the whole class say their lessons together.」^{注25)}

この第一の授業方式に関して、Wilderspin(1824)は「この部分の授業計画は私自身のものではなく、ウエストミンスター幼児学校の校長によって私が教えられたものである。This part of the plan is not my own, but was taught me by the Master of the Westminster Infant School.」^{注26)}と述べており、それがウィルダースピン自身ではなく、ウエストミンスター幼児学校の校長ジェームズ・ブキャナンが考案した授業計画だということを明らかにしている。

第二は、教師自身が壁に貼られたアルファベットを指し示し、取り囲んで立った子どもたちがそれを音読するものである。

「私が述べようとする計画は、ほぼ毎日実行されるとともに、クラスルームと呼ばれるものに素晴らしく適合するものであり、次のように教えられた；ローマン体とイタリック体で紙上に印刷された大きなアルファベットがある；この紙を板または厚紙に張り付けて、壁に設置する。クラス全員がそれを囲んで立ち、モニターがその文字を指し示す代わりに、男性教師や女性教師がそれを行う；つまり、子どもたちが互いに授業し合うだけではなく、どの子どもも毎日2回は男性教師か女性教師から直接レッスンを受けるのである。すなわちこういうことである。

つまり幼児学校の運営には、男性教師と女性教師の2人が必要である。1人は大部屋を担当し、もう1人はクラスルームを担当する。大部屋における教師の仕事とは秩序を維持することと、モニター達が義務を果たしているか、さらに子ども達がレッスンを見落としていないかを、確認することである；クラスルームの教師の仕事とは、彼自身が子ども達に教えることである、・・・

The plan that I am about to describe is in practice almost every day, and is better adapted for what is called the class-room and taught thus; — we have the alphabet printed in large letters, both in roman and italic characters, on one sheet of paper; this paper is pasted on a board or on pasteboard, and placed against the wall; the whole class then stand around it, but instead of one of the monitors pointing to the letters, the master or mistress does it; so that the children not only get instruction from each other, but every child has a lesson from the master or mistress twice every day.

It may be proper here to mention, that two persons are necessary to manage an infant school, a master

and mistress, one being occupied in the large room, the other in the class room. The business of the person in the large room is to keep order, and to see that the monitors do their duty, and that the children do not look off their lessons; and the business of the master in the class-room is to teach the children himself;」^{注27)}

以上のように、ウィルダースピンが設置したクラスルームとは、現代の我が国のように約40名の子どものを対象にして一斉授業を行う空間ではなかったが、モニトリアル・システムにおける約10名のクラスと呼ばれる子どものグループに対して教師が直接、授業を行う空間であった(図4)。

3-2. 運動場について

Wilderspin(1824)は、「運動場の無い幼児学校は、ダム・スクールと呼ばれるものと大差ないと私は思う。 100人或いはそれ以上の子どもが一つの教室にいる場合、例えその教室が様々な点で使い勝手が良くても、運動場無しでは得られない適度な息抜きや運動が子どもたちに与えられなければ、彼らはひどく健康を害すことになるというのが、我が卑見において、一番重要なことである。

It appears to me, that without a play-ground, Infant Schools would be little superior to what are termed Domes' Schools, To have one hundred children, or up-wards, in a room, however convenient such room might be in other respects, and not to allow the children proper relaxation and exercise, which they could not have without a play-ground, would materially injure their health, which is a thing, in my humble opinion, of the first importance. 」^{注28)}と述べており、運動場によって与えられる息抜きや運動が子どもの健康にとって不可欠なものと考えられている。

また、「運動場は世界になぞらえられるだろう、そこで小さな子どもたちは彼ら自身に委ねられる、そこで彼らが受けた教育がどのような効果を生み出すかを見ることができよう、例えば子どもたちが喧嘩や口論をすることになろうとも、彼らがそうするのはそこにおいてである、このことは理にかなったアドバイスを彼らに与える機会を教師にもたらす、 The play-ground may be compared to the world, where the little children are left to themselves, there it may be seen what effects their education has produced, for if any of the children are fond of fighting and quarrelling, it is there that they will do it, and this gives the master an opportunity of giving them reasonable advice,」^{注29)}と述べており、運動場が俗社会から隔離され、教育に直結した子ども独自の世界をつくるものと想定された。

さらに、「ウィルソン氏の学校の運動場は煉瓦で舗装されており、雨水を素早く吸収するので、私はそれが大変優れていると答え得ることを見出した。 The play-ground of Mr. Wilson's school is paved with bricks, which I have found to answer very well, as they absorb the rain so quick,」^{注30)}、或いは、「私はまた、運動場の中央や、塀に沿って、果物の木を植えることを推奨する；それは子どもたちを明るくするだろう、さらに彼らに私有地を尊重することを教えるだろう。また、運動場の周囲に花壇を設けるべきである、そこには子どもの発する嫌な臭いを打ち消すくらい強い強い香りを発する花々が植えられる、それゆえ子どもたちの健康に貢献

する、 I should also recommend that fruit-trees be planted in the centre of the play-ground, and likewise round the walls ; which will delight the children, and teach them to have respect to private property. There should also be a border of flowers round the play-ground, of such sorts as will yield the most fragrance, which will tend to counteract any disagreeable smell that may proceed from the children, and thereby be conducive to their health,」^{注31)}と述べており、運動場を煉瓦で舗装すること、果樹を植えること、花壇を設けることが奨励された。

3-3. ギャラリーについて

Wilderspin(1825)と Wilderspin(1829)に掲載された幼児学校のモデルプランには既にギャラリーが描かれているが、この両書にはギャラリーに関する説明文はない。次のように、ギャラリーに関する説明文の初出は Wilderspin(1832)^{注32)}であり、それはギャラリーを使用した「オブジェクト・レッスン」について述べたものである。また、その後の Wilderspin(1840)^{注33)}において、ギャラリーを使用した「ギャラリー・レッスン」が紹介されている(図5)。それは、後述のようにオブジェクト・レッスンの他に、自然史、幾何学、算数、地理、文法、綴り方のレッスンを含むものである。

Wilderspin(1832)は、「子どもたちは彼らの興味を刺激するものには何にでも注視できることから、彼らと一緒にグルーピングするアイデアが導かれ、『オブジェクト・レッスン』と呼ばれるものが得られた。当初、彼らは教室の端部に配置されたが、これはうまくいかなかった。つまり、教室を横切って平行線が描かれ、彼らはその線上に並んで座ったのだ。しかし、彼らの注意を引くことはできたものの、彼らの姿勢が好ましいものではなかった。彼らの並びを保つために、ある種の拘束力が後に用いられたが、前後に動いて、長続きしなかった。その後、私はイスを使って様々な実験を行ったが成功に至らず、やっと、ギャラリーすなわち連続するステップの建設へと辿り着いた。年少者は低い方に、また年長者は高い方に座ることが、望むべき最終的な解答となった。 Whatever children can see excites their interest, and this led to the idea of grouping them together, to receive what are called " object lessons." First, they were placed at the end of the room, but this was inconvenient; parallel lines were then drawn in chalk across the room, and they sat down in order on these; but, though the attention was arrested, the posture was unfavourable; some pieces of cord were afterwards placed across to keep them in rank and file, but as this led to a see-sawing motion, it was discontinued; I then made various experiments with seats, but did not succeed; until, at length, the construction of a gallery, or succession of steps, the youngest occupying the lower, and the eldest the higher, answered the desired end. 」^{注34)}と述べて、ギャラリー設置の経緯を説明している。クラスルームや運動場の設置の経緯が不明なのに対して、このようにギャラリー設置の経緯は、ウィルダースピン自身によって述べられている。

一方、Wilderspin(1840)は、「ギャラリーは、学校の諸施設において必要不可欠なものである；ギャラリーにおける児童の道徳的並びに知的な訓練は強い集中力をもたらす。子どもたちは一緒に連れていかれる、そしていろいろな面白い科目についてのレッスンが彼ら

に教授される。彼らの注意力は高まり、音読されたこと、物語られたこと、説明されたこと、表示されたことへの印象は、クラス別のレッスンよりも大変効果的に、彼らの若い心に刻印される；そしてついには、ここにおいて、彼らの若い心は発達を遂げる。ギャラリー・レッスンのための科目は、本書では次の順番であり、第一は、オブジェクトについてのレッスンである；第二は、自然史；第三は、幾何学；第四は、算数；第五は、地理；第六は、文法；第七は、口述と派生による綴り方である。The gallery is an indispensable part of the apparatus of the school; in it the moral and intellectual training of the pupils are strongly concentrated, the children are brought together, and lessons are taught them on different interesting subjects. Their attention is gained, and an impression of what has been read, narrated, explained, or shown, is made upon their young minds more effectually than in classes; and, finally, it is here, the development of their youthful mind begins to make its appearance. The subjects for gallery lessons, are first, lessons on objects as arranged in this book; second, natural history; third, geometry; fourth, arithmetic; fifth, geography and elements of astronomy; sixth, grammar; seventh, spelling by dictation and derivation.」^{注35)}と述べて、モニトリアル方式における約10名からなるクラス別のレッスンよりもギャラリーを用いたレッスンの方が効果的だと主張している。

ここで注意すべきは、現代のクラスルームにおける一斉授業が、教師が多数の子どもに直接授業を行うものであるのに対して、ウィルダースピンの述べるオブジェクト・レッスン及びギャラリー・レッスンは、一斉授業のようではあるが、子どもが子どもに教えるというモニトリアル・システムの特徴を残していることである。これは、Wilderspin(1825)とWilderspin(1829)が掲載する幼児学校のモデルプランにおいてギャラリーの前面に講壇が描かれており(図6)、その脚注に「ギャラリーに座った子どもたちにモニターが教えるための講壇 Rostrum for the monitor to teach children when seated in the gallery」^{注36)}と明記されている事実から確認される(図7)。

4. クラスルーム、ギャラリー、運動場の系譜

4-1. スコットランドにおける先例

Markus(1996)は、幼児教育の系譜はロバート・オーエンからジェームズ・ブキャナンを経てウィルダースピンに連なるものの、クラスルーム、運動場、ギャラリーについては、ウィルダースピンが、「見たところ たちどころに、発案した apparently immediately, produced」^{注37)}と述べている。しかし、後述のようにこれらはウィルダースピンの独自の発案ではなく、その系譜をオーエンの性格形成新学院をはじめ、スコットランドにおける高等教育や中等教育の学校に見出せるものである。筆者は満岡(2010)において、オーエンがグラスゴー大学及びエジンバラ大学の教授たちと親交があったことや、1825年に描かれたグラスゴー大学の講義室における講義の様子とウィルダースピンのギャラリー・レッスンの絵とが類似していることを紹介し、クラスルームの起源がスコットランドの大学の講義室に遡る可能性が高いことを指摘した。本稿では、性格形成新学院とともに、オーエンがその教授たちと親交があったエジンバラ大学、さらに同じエジンバラにある中等教育機関であるエジンバ

ラ高等学校とエジンバラ・アカデミーの4校に着目し、クラスルーム、運動場、ギャラリーの系譜を考察する。

4-2. 性格形成新学院

第一に、ウィルダースピンの発案と言われるクラスルームの直接的なルーツをオーエンの性格形成新学院に求められる。なぜなら満岡(2010)で述べたように、1816年設立の性格形成新学院では「クラスルーム」という名称こそ使用されなかったが、学院には年少クラス(幼児クラス)と年長クラスが存在し、このうち年少クラスは1階の3室(両側 50 x 40 ft²、中央 36 x 40 ft²)を専用の部屋として使用したからである(図2)。前述のように、この年少クラスの担当教師がジェームズ・ブキャナンであり、彼がスパイタルフィールズ幼児学校の校長として選任したのがウィルダースピンなので、ブキャナンを通じてクラス専用の部屋、即ちクラスルームの有用性がウィルダースピンに伝授された可能性が高い。前述のように、スパイタルフィールズ幼児学校におけるクラスルームを利用した第一の授業方式の考案者がブキャナンである事実はその証左である。さらに、ウィルダースピンの着任は開校の2週間後であるが、開校時にはクラスルームが存在したようなので、最初にその設置を企図したのはブキャナンまたは他のオーエンの関係者ではないかと推測される。第二に、ウィルダースピンの発案と言われる運動場の直接的なルーツもオーエンの性格形成新学院に求められる。なぜなら満岡(2010)で述べたように、性格形成新学院には運動場が存在し、その運動場を使用して幼児教育を行ったのがブキャナンに他ならないからである。さらにクラスルームの設置と同じ理由から、運動場の設置者もブキャナンまたは他のオーエンの関係者だった可能性が高い。

第三に、性格形成新学院に授業用のギャラリーteaching galleryはなかったが、スパイタルフィールズ幼児学校のギャラリー・レッスンの成立に影響を与えたと思われる授業方法が存在する。それは一斉授業として行われた学院の「講義 lecture」であり、自然史、地理、古代史、現代史が一つの科目として教えられたものである^{注38)}。特に、このうちの自然史と地理はギャラリー・レッスンと共通する科目となっている。この「講義」を著書として一般に紹介したのはDale Owen(1824)^{注39)}が初出であるのに対して、前述のようにウィルダースピンによる「オブジェクト・レッスン」の初出はWilderspin(1832)、また「ギャラリー・レッスン」の初出はWilderspin(1840)であり、後者は前者の8年後と16年後に出版されたものである。したがって、ギャラリー・レッスンは、学院の「講義」を参考にして考案された可能性がある。

何れにせよ、Wilderspin(1824)は、オーエン自身が3、4回、スパイタルフィールズ幼児学校を訪問し、そのシステムを称賛して多くの有用なヒントを与えたと述べているので、オーエンの性格形成新学院から何らかの影響を受けていることは事実である^{注40)}。

4-3. エジンバラ大学

エジンバラ大学は1583年の設立で、英国では6番目、スコットランドでは4番目に古い大学である^{注41)}。Fraser(1989)^{注42)}は、18世紀後半以降の同大学の校舎に関する歴史書であるが、それによると当時より、同大学では同じ科目を履修する学生グループが「クラス」と、また科目専用の講義室が「クラスルーム」と呼ばれていることが分かる。注目すべきは、同大学においてクラスルームへの「ギャラリー」の設置が始まったことである。見たところ、ギャラリー

の登場は、1764年に建設された八角形の平面型を持つ解剖学シアター—anatomy theater—to 始まる^{注43)} (図8)。さらに、クラスルームへのギャラリーの設置は、建築家ロバート・アダム Robert Adam(1728-1792)によって1789年に作成され、1791年にロンドンで出版されたエジンバラ大学新校舎計画案に始まる^{注44)} (図9)。この計画案による新校舎は部分的に建設された後、1816年の設計コンペで選出された建築家ウィリアム・ヘンリー・ブレイフェア William Henry Playfair(1790-1857)によって大幅な変更が行われ、1840年頃までにその全体が完成されている^{注45)}。また Fraser(1989)は、この計画案とは別に、化学の教授であったトーマス・チャールズ・ホープ Thomas Charles Hope(1766-1844)が、化学クラスの学生急増を契機として、1800年に旧校舎にあった彼のクラスルームにギャラリーを設置した逸話を紹介している^{注46)}。

このようにギャラリーの設置が進んだのは、当時のオックスフォード大学やケンブリッジ大学では個人指導 tutorial を中心に授業が行われたのに対して、スコットランドの大学では講義 lecture を中心に授業が行われたことによる^{注47)}。すなわち、18世紀に起こったスコットランド啓蒙主義 Scottish Enlightenment によって、哲学、経済学、工学、建築学、医学、地学、考古学、法学、農学、化学、社会学の分野が急激に発展し、エジンバラ大学、グラスゴー大学、アバディーン大学等がその議論の場となるとともに、1750年までにスコットランド人の識字率がヨーロッパで最高の75%に上った^{注48)}。この結果、上流階級だけではなく労働者階級の子弟も大学へ進学したが、当時のスコットランドの大学へは14歳から進学したことも相まって学生数が増加した^{注49)}。このため、教師の手元にある器具や資料を見せながら多くの学生に授業を行う講義 lecture が発達し、それを行う装置としてギャラリーの設置が進められたのである (図10)。このようなスコットランドの大学で行われた講義という授業方法とその装置であるギャラリーが、ウィルダースピンが活躍した当時のロンドンに移入されている。それは1826年設立のロンドン大学 London University (現 University College London) である^{注50)}。Bellot(1929)^{注51)}は、ロンドン大学は1825年4月の時点では「古のエジンバラ高等学校をモデルとした学校の設立 the establishment of a school on the model of the old High School of Edinburgh」^{注52)} だったものであり、「その教育システムは、見たところ、練習や試験をともなった講義による授業であった。それは旧来型の大学からの意図的な離脱であり、スコットランドにおける実践をモデルにしたものであった。The system of education, it will be observed, was that of instruction by lectures, with exercise and examination. It was a deliberate departure from the method of the older universities, and was modeled upon the practice of Scotland.」^{注53)}と述べている。このように、スコットランドの大学や古のエジンバラ高等学校で実践された講義が採用されて、ギャラリーを設置した半円形の講義室を有するロンドン大学校舎が建設された (図11)。このような時代背景の下、スパイタルフィールズ幼児学校にギャラリーが設置され、ギャラリー・レッスンが行われたのである。

4-4. エジンバラ高等学校

エジンバラ高等学校 High School of Edinburgh (現 Royal High School of Edinburgh) は1128年の設立であり、もとはラテン語を教えるグラマースクールであったが、これが1505年以来、「高等学

図8 エジンバラ大学解剖学シアター(1764年) : エジンバラ大学に初めて設置されたギャラリー

図9 エジンバラ大学計画案(1791年) : 講義室が「クラスルーム」と呼ばれ、多くのクラスルームにギャラリーが設置されている

図10 グラスゴー大学、講義室での解剖学の講義(1825年) : ギャラリーに学生が座り、教授による講義 lecture を受けている

校 High School」と呼ばれたものである^{注54)}。同校の歴史を紐解くと、1597年に同校は4人の教師を有し、「第一 first」から「第四 fourth」までの4集団から構成されていたが、1614年に「第五 fifth」が追加されて5集団となり、その後、1644年に集団の名称に「クラス」が付いて、それぞれ「第一または初等クラス first or elementary class、第二クラス second class、・・・第五クラス fifth class」と呼ばれるようになった^{注55)}。

同校の校舎平面としては、建築家アレクサンダー・レイング Alexander Laing の設計によって 1777 年に完成したものが、Steven(1848)の次の記述より明らかである(図 12)。「・・・2階建てであり、南北に 120 フィート、横幅が 36 フィートある。下階は大ホールであり、共同で利用される他、毎朝教師が生徒とともに集合し礼拝を行う。ホールの右端と左端に 2 部屋があり、一方は図書室として利用され、もう片方は書き方の教師によって利用されている。建物背面に付けられた異なる 3 つの階段室がホールから上階へと伸びている。上階は 5 部屋に区画され、各クラスがそれぞれ使用している；校長のクラスルームは中央に配置されている。・・・consisted of two stories, measuring in length, north and south, 120 feet by 36 feet broad. In the lower story was the great hall, designed not only for public occasions, but also for the teachers meeting with their pupils every morning for prayers. On the right and left of the hall were two rooms, the one being for a library, the other for the use of the writing master. From the hall three different staircases, projecting from the back of the building, led to the floor above, which was divided into five apartments, that each class might be separately accommodated ; the rector's class room occupied the centre.」^{注56)}

以上のように、同校においては、1644年に「クラス」という用語が登場し、18世紀後半には5つのクラスに対応した5つのクラスルームが存在していたことが確認される。

Steven(1848)によると、1819 当時、学生数は 800 名から 900 名ほどにも上り、増加した学生数に対応するために、同校の古典教育にモニトリアル・システムが導入されたという^{注57)}。そこでは校長 rector の指導下、1 クラス 9 名で 23 クラス、合計 207 名がモニトリアル・システムによる授業を同時に受けたが、その際、複数の部屋が同時に使用されて、「各部屋 rooms」に生徒の振舞を監視するクストス・モルム custos morum (「法の番人」の意味) が配されたとされる^{注58)}。また、Steven(1848)は、モニトリアル・システムを用いて 271 名の生徒に対して、クラスルームと隣接する二つの書き方室 the class-room and two adjoining writing-rooms を使用して授業を行ったとも述べている^{注59)}。どの部屋が使用されたのか判然としないが、生徒数から考えて、1 階のホールとそれに隣接する部屋が使用されたのではなかろうか。

また、同校には運動場 playground が存在した(図 13)。1777 年の絵では校舎前面に小広場があり、生徒が遊ぶ様子が確認される(図 12)。Steven(1848)掲載の 1837 年に書かれた文章では、それ以前からこの小広場が「運動場 playground」と呼ばれたことが分かる^{注60)}。

以上のように同校は、校舎が大ホールと複数のクラスルームから構成されており、運動場が校舎全面に設置されているが、これらの特徴は前述した性格形成新学院において校舎がプリンシパル・スク

ールルームと複数の教室から構成され(図 2)、校舎前面に運動場が設置されていることと共通する(図 1)。したがって、同校の校舎や運動場を参考にして、1816 年設立の性格形成新学院の校舎や運動場が計画された可能性を指摘できる。

4-5. エジンバラ・アカデミー

エジンバラ・アカデミー Edinburgh Academy は、生徒数が増加した当時のエジンバラ高等学校に代わる古典教育を行う私立の中等教

図 11 ロンドン大学立面図及び平面図(1826 年):校舎の両端に半円形のギャラリーからなる講義室が設置されている

図 12 エジンバラ高等学校 校舎と運動場(1777 年):校舎前面に小広場(運動場 playground)があり、そこで生徒が遊んでいる

図 13 エジンバラ高等学校 校舎と運動場(1781 年):校舎前面に小広場があり、そこが「運動場 playground」と呼ばれた

育機関として、エジンバラ高等学校をモデルにして 1824 年に設立された。1823 年に起草され、1824 年に出版された同校の設立趣意書は、「我々の学校はそれゆえ、(エジンバラ) 高等学校と同様に、校長と 4 名の下級教師によって指導が行われる。少年たちは 4 年間で 1 名の教師の下で過ごした後、校長の監督下へと引継がれ、校長とともに 2 年間で過ごす。Our school is therefore to be conducted, as in the High School, by a Rector and four Under Masters, the boys remaining four years under one Master, who fits them for coming under the care of the Rector, with whom they continue two years.」^{注 61)}と述べている。このように合計 6 年間で学したことや、当時のスコットランドでは高校から大学へ 13、14 歳から進学したことを併せて考えると^{注 62)}、同校ではおよそ 8、9 歳から 13、14 歳までの生徒が学んだと推定される (図 14)。

同趣意書は、さらに平面図を掲載している (図 15)。それは Wilderspin(1825)及び Wilderspin(1829)が掲載する幼児学校のモデルプランに先行して出版されたものである。校舎は、楕円形の集会室を中心に、左右に各二つの下級教師のクラスルーム(40 x 30ft²)が、また後部に校長のクラスルーム(50 x 30 ft²)が配されている。興味深いのは、同校の各クラスルームに「プライベート・クラスルーム private classrooms」という二つの小部屋(20 x 15 ft² と 17 x 12 ft²)が設置されていることである (図 16)。同趣意書によると、同校ではモニトリアル・システムによる授業方式を採用することが望ましいとされた^{注 63)}。前述のように同校のモデルであるエジンバラ高等学校では、クラスルームと隣接する二つの書き方室を使用したモニトリアル・システムが導入されたので、この二つのプライベート・クラスルームもモニトリアル・システムに連動して使用された可能性が高い。プライベート・クラスルームとは「隔離されたクラスルーム」を意味する。したがって、ウィルダースピンのクラスルーム(20 x 18 ft²)と同様に、それはモニトリアル・システムにおける約 10 名のクラスに対して授業を行う小教室だったと考えられる。

他方、校舎の周囲には運動場 playground が設置されている (図 14 と図 15)。同設立書に書かれた第一クラス (第一学年) の時間割では、毎日 11 時から 11 時 45 分までが運動場で過ごす休憩時間と定められている^{注 64)}。他クラス (他学年) の時間割には休憩時間はとられていないが、「我々の意見としては、各授業の合間に、全クラス (全学年) とも中休みをとるべきである; 運動場を 5 分または 10 分、走ることにより、心身におけるリラックスしたエネルギーの十分な回復をみることができるだろう。We are of opinion that between every change of occupation, there ought to be an interval in all the Classes; a run of five or ten minutes in the play-ground will be quite enough to renovate the relaxed energies both of body and mind,」^{注 65)}というように、心身の元気回復のために運動場が活用できることを説明している。

5. 結

ウィルダースピンのクラスルームとは、モニトリアル・システムにおける約 10 名のクラスと呼ばれる子どものグループに対して教師が直接、授業を行う空間であった。また、運動場とは、子どもに息抜きや運動を与えるとともに、俗社会から隔離され教育に直結した子どもの世界をつくる空間であった。さらに、ギャラリーとは、

図 14 エジンバラ・アカデミー 校舎と運動場(1824 年): 運動場では子どもがクリケットのような遊びをしている

図 15 エジンバラ・アカデミー平面図(1824 年): 校舎が中央に配され、周りを運動場 play ground が囲んでいる

図 16 クラスルームと二つのプライベート・クラスルーム (1824 年): 図 15 の部分的拡大

一斉授業であるギャラリー・レッスンを行う空間的な装置であり、それはモントリアル・システムにおけるクラス毎のレッスンよりも効果的とされた。

他方、性格形成新学院、エジンバラ大学、エジンバラ高等学校、エジンバラ・アカデミーを見るならば、クラスルーム、運動場、ギャラリーはウィルダースピンの純然たる発明品ではなく、その先例が存在することがわかる。第一に、ウィルダースピンのクラスルームと運動場の直接的なルーツを性格形成新学院に求めることができる。特に、スパイタルフィールズ幼児学校のクラスルームと運動場は、ジェームズ・ブキャナンまたは他のオーエンの関係者の企図により設置された可能性が高い。第二に、ギャラリーの先例をエジンバラ大学のクラスルームに認めることができる。同大学におけるギャラリーの嚆矢は 1764 年設置の解剖学シアターである。また、ウィルダースピンはギャラリー・レッスンを Wilderspin(1840)において初めて著したが、それはスコットランドの大学や古のエジンバラ高等学校をモデルとして 1826 年にロンドン大学が設立された後のことである。同大学にはギャラリーを備えた講義室が在り、講義による授業が行われていた。第三に、エジンバラ高等学校では 1644 年に「クラス」という呼名が出現している。また、1777 年完成の校舎には、クラスルームが存在している。1819 年には同校へモントリアル・システムが導入され、クラスルームと隣接する二つの書き方室を同時に使用した授業が行われている。また、同校には運動場が存在し校舎が大ホールとクラスルームから構成されているので、同様な構成である 1816 年設立の性格形成新学院が、同校を参考に計画された可能性を指摘できる。第四に、エジンバラ・アカデミーはエジンバラ高等学校をモデルに 1824 年に設立されたが、同校には運動場が存在し、校舎は集会室と五つのクラスルームから構成されている。また各クラスルームにはプライベート・クラスルームという小部屋が二つ設置されており、ウィルダースピンのクラスルームと同様にモントリアル・システムにおいて使用された可能性が高い。以上が本稿で明らかにした要点である。

教育史上、コメニウス(J.A.Comenius, 1592-1670)がクラスの空間的独立を奨励し、一斉授業を勧めたと言われるが^{注 66)}、コメニウスのクラスと現代のクラスとの具体的な繋がり是不明であった。これに対し、上述のように現存するエジンバラ高等学校（現 Royal High School of Edinburgh）では、クラスという呼名がコメニウスと同時代の 1644 年に出現していることは特筆すべきであろう。

また、五十嵐太郎氏と大川信行氏の共著「ビルディングタイプの解剖学」^{注 67)}は、先述の Seaborne(1971)や Markus(1996)と同様に、ウィルダースピンによってクラスルーム、遊び場（運動場 playground）、ギャラリーが発明されたことを紹介しているが^{注 68)}、本稿で明らかにしたように、これらの系譜をスコットランドの大学や高等学校に遡ることが可能である。さらに、同書はパノプティコンを考案したジェレミー・ベンサム Jeremy Bentham(1748-1832)と学校との関係も述べている^{注 69)}。これに関して、ベンサムがニューラナークの共同経営者となりオーエンと議論を交わしたこと^{注 70)}、特にオーエンがベンサムと共通する「最大多数に最大の幸福を産み出す統治」という原理を用いたこと^{注 71)}、ベンサムがロンドン大学の建学の父と認識されていること等を勘案するならば^{注 72)}、ベンサムはクラスルームの系譜とも関わりを持つと言える。一方、同書はウィ

表 1 主要な出来事

1600 年代	コメニウス (1592-1670) がクラスの空間的独立を奨励。
1644 年	エジンバラ高等学校に「クラス」という呼名が出現。
1764 年	エジンバラ大学にギャラリーを備えた解剖学シアターが設置される。講義室をクラスルームと呼称。
1777 年	エジンバラ高等学校の新校舎完成。クラスルームと運動場を有する。
1791 年	エジンバラ大学新校舎計画案出版。クラスルーム（講義室）にギャラリーを設置。
1819 年	エジンバラ高等学校にモントリアル・システムが導入。
1824 年	エジンバラ・アカデミー設立。クラスルームと運動場を有する。
1825 年	ウィルダースピンの著書にて、クラスルーム、運動場、ギャラリーの描かれた幼児学校モデルプランが初出。
1826 年	ロンドン大学設立。ギャラリーを備えた講義室を有する。
1832 年	ウィルダースピンの著書にて、オブジェクト・レッスンが初出。
1840 年	ウィルダースピンの著書にて、ギャラリー・レッスンが初出。

ルダースピンの後継として、ウィリアム・ウィルソン William Wilson の学校モデルについて述べている^{注 73)}。これに対して筆者は、彼が前述のジョセフ・ウィルソンの兄弟であることを指摘するとともに^{注 74)}、ウィルダースピンがその重要性を主張したクラスルーム、運動場、ギャラリーはその後、ストウ David Stow(1893-1764)の「訓練システム」^{注 75)}や枢密院教育委員会の 1840 年発行の「覚書」^{注 76)}における学校モデルを経て、現代英国の小学校建築へと発展したと考えるが、その詳細は別稿にて論じる。最後に、本稿で述べた主要な出来事を表で示し、締め括りとしたい（表 1）。

本研究の既発表論文

- * 1) 満岡誠治：S・ウィルダースピンの教育論におけるクラスルーム、運動場、ギャラリー・英国における小学校建築に関する計画史的研究その 3、日本建築学会研究報告九州支部、第 50 号、建築計画 A, pp.41-44, 2011. 3
- * 2) 満岡誠治：スコットランドにみるクラスルーム、運動場、ギャラリーのルーツ・英国における小学校建築に関する計画史的研究その 4、日本建築学会研究報告九州支部、第 51 号、建築計画 A, pp.57-60, 2012. 3

参考文献

- 1) 満岡誠治：クラスルームと運動場の起源に関する考察・英国における小学校建築に関する計画史的研究、日本建築学会計画系論文集、第 654 号、pp.1845-1854, 2010. 8
- 2) Seaborne, Malcolm: *The English School its architecture and Organization 1370-1870*, Routledge & Kegan Paul, 1971
- 3) Thomas A. Markus: *Early Nineteenth Century School Space and Ideology*, Paedagogica Historica, Volume 32, Issue 1, pp. 8-50, 1996
- 4) デイヴィッド・ハミルトン著、安川哲夫訳：学校教育の理論に向けて クラス・カリキュラム・一斉授業の思想と歴史、世織書房、1998
- 5) ニューラナーク保全財団著：ニューラナーク物語、ニューラナークトラスト出版、出版年不明
- 6) Podmore, Frank: *Robert Owen: A Biography, Volume 1*, Hutchison & Co., 1906, reprint Bibliolife, 2008
- 7) Owen, Robert: *The Life of Robert Owen, 1857*, reprint Augustus M. Kelley Publishers, 1967
- 8) Wilderspin, Samuel: *On the Importance of Educating the Infant Poor*, W. Simpkin and R. Marshall, 1824, reprint Bibliolife, 2009
- 9) Wilderspin, Samuel: *Infant Education or Remarks on the Importance of Educating the Infant Poor*, W. Simpkin and R. Marshall, 1825
- 10) Wilderspin, Samuel: *Infant Education or Practical Remarks on the Importance of Educating the Infant Poor*, W. Simpkin and R. Marshall, 1829

- 11) Wilderspin, Samuel: *Early Discipline Illustrated: Or, The Infant System Progressing and Successful*, Westley and Davis, 1832, reprint Bibliolife, 2009
- 12) Wilderspin, Samuel: *A System for the education of the Young*, James S. Hodson, 1840
- 13) Owen, Robert Dale: *An Outline of the System of Education at New Lanark*, University Press, 1824, reprint Kessinger Publishing, 2008
- 14) McCann, Phillip et al.: *Samuel Wilderspin and the Infant School movement*, Croom Helm, 1982
- 15) Fraser, Andrew G.: *The Building of Old College*, Edinburgh University Press, 1989
- 16) クリストフ・シャルル著, 岡山茂訳: 大学の歴史, 白水社, 2009
- 17) Gaillet, Lewis Lyee: *A Genesis of Writing Program Administration: George Jardine at the University of Glasgow*, Historical Studies of Writing Program Administration, Parlor Press, pp. 169-190, 2003
- 18) Bellot, H. Hale: *University College London 1826-1926*, University of London, 1929
- 19) 竹腰千恵: イギリス高等教育におけるチュートリアルの伝播と変容, 京都大学大学院教育学研究科紀要, 第 54 号, pp. 371-384, 2008
- 20) Steven, William: *The History of the High School of Edinburgh*, MacLachlan & Stewart, 1849
- 21) Edinburgh Academy: *Statement by the Directors of the Edinburgh Academy Explanatory of the scheme of that Institution*, John Hutchison, 1824
- 22) 小松佳代子: クラスの形成と一斉授業—西欧の場合, 学校をよりよくするための教育学(2), 学事出版, pp.7-18, 2006
- 23) 佐藤実芳: イギリス幼児学校成立の研究, 名古屋大学教育学部紀要, 第 34 号, pp. 73-85, 1987
- 24) 五十嵐太郎, 大川信行: ビルディングタイプの解剖学, 王国社, 2002
- 25) ロバート・オウエン著, 五島茂訳: オウエン自叙伝, 岩波文庫, 1961, 1995 (第 11 刷)
- 26) ロバート・オーエン著, 斉藤新治訳: 性格形成論, 明治図書, 1974

注

- 注 1) 文献 1)
- 注 2) 文献 2)
- 注 3) 文献 3)
- 注 4) 文献 2) p. 142
- 注 5) 文献 3) pp.41-43
- 注 6) 文献 4)
- 注 7) 同上 pp. 102-103
- 注 8) 文献 5) pp. 18-19
- 注 9) 文献 6) p. 136
- 注 10) 文献 7) pp. 139-141
- 注 11) 文献 5) p. 19
- 注 12) 文献 11) p. 2
- 注 13) 文献 8) pp. 23-31
- 注 14) 文献 11) pp. 2-3
- 注 15) 文献 8) p. 30
- 注 16) 文献 14) p. 296
- 注 17) 同上 introduction
- 注 18) 文献 8)
- 注 19) 例えば, 同上 p. 30, p. 38-39, pp. 133-139
- 注 20) 同上 pp. 163-164
- 注 21) 文献 9)
- 注 22) 文献 10)
- 注 23) 文献 8) pp. 38-39
- 注 24) 同上
- 注 25) 同上, 筆者訳
- 注 26) 同上 p. 39, 筆者訳
- 注 27) 同上 p. 44, 筆者訳
- 注 28) 同上 pp. 133-134, 筆者訳
- 注 29) 同上 p. 134, 筆者訳
- 注 30) 同上 p. 136, 筆者訳
- 注 31) 同上 p. 137, 筆者訳
- 注 32) 文献 11)

- 注 33) 文献 12)
- 注 34) 文献 11) pp. 5-6
- 注 35) 文献 12) p. 293
- 注 36) 文献 10) 付録図面の脚注, 筆者訳
- 注 37) 文献 3) p. 40
- 注 38) 文献 1)
- 注 39) 文献 13)
- 注 40) 文献 8) p. 181
- 注 41) en.wikipedia.org/wiki/University_of_Edinburgh 2012.6.6 参照
- 注 42) 文献 15)
- 注 43) 同上 pp. 42-43
- 注 44) 同上 p. 110
- 注 45) 同上 p. 267
- 注 46) 同上 p. 44
- 注 47) 文献 1)
- 注 48) en.wikipedia.org/wiki/Scottish_Enlightenment 2012.6.6 参照
- 注 49) 例えば, 文献 16) p. 104 及び文献 17) p. 177
- 注 50) en.wikipedia.org/wiki/University_College_London 2012.6.6 参照
- 注 51) 文献 18)
- 注 52) 同上 p.48
- 注 53) 同上 p.79
- 注 54) en.wikipedia.org/wiki/Royal_High_School_Edinburgh 2012.6.6 参照
- 注 55) 文献 20) p. 47
- 注 56) 同上 p. 124
- 注 57) 同上 pp. 192-193
- 注 58) 同上
- 注 59) 同上 p. 197
- 注 60) 同上 p. 204
- 注 61) 文献 21) p. 9
- 注 62) 文献 20) p. 67
- 注 63) 文献 21) p. 16
- 注 64) 同上 p. 13
- 注 65) 同上
- 注 66) 文献 22) p. 8
- 注 67) 文献 24)
- 注 68) 同上 p. 58-63
- 注 69) 同上 p. 55-57
- 注 70) 文献 25) p. 233
- 注 71) 文献 26) p. 83
- 注 72) ja.wikipedia.org/wiki/ジェレミ・ベンサム 2012.9.5 参照
- 注 73) 文献 24) pp. 60-61
- 注 74) Latham, J. E. M: *Search for a New Eden*, Associated University Press, 1999, p. 13
- 注 75) Stow, David: *The Training System, Established In The Glasgow Normal Seminary, And Its Model Schools*, 1840 等。
- 注 76) Committee of Council on Education: *Minutes*, 1840

図、写真、表の出典

- 図 1 文献 5) p. 13 原図の部分的拡大
- 図 2 New Lanark Conservation Trust の提供。図中の文字は筆者挿入。
- 図 3 文献 10) 付録, 図中の文字は筆者挿入。
- 図 4 文献 12) pp. 268-269
- 図 5 文献 12) pp. 104-105
- 図 6 図 3 の部分的拡大, 図中の文字は筆者挿入。
- 図 7 図 3 の部分的拡大
- 図 8 文献 15) p. 43
- 図 9 同上 p. 110
- 図 10 special.lib.gla.ac.uk/exhibns/month/june2005.html 2012.6.13 参照
- 図 11 mapco.net/stmarylechurch/stmaryle23.htm 2012.6.13 参照
- 図 12 文献 20) p. 123
- 図 13 文献 15) p. 45, 1781 年の地図の部分的拡大
- 図 14 文献 21) 付録
- 図 15 文献 21) 付録
- 図 16 図 15 の部分的拡大
- 表 1 筆者作成

(2012年7月9日原稿受理, 2012年10月9日採用決定)